

## 生涯学習から始まった地域振興～「人こそが地域を創る」

和歌山県推薦 都市農村交流アドバイザー（分野：合意形成）

山下 泰三（紀州体験交流ゆめ倶楽部 事務局長）

### 1. 生涯学習の推進から始まった地域づくり

当地日高川町旧中津村は、大阪のJR天王寺駅から90分、JR御坊駅から車で20分の比較的アクセスの良い都会に近い田舎です。

平成7年当時、社会教育課の課長補佐時代に、国の生涯学習モデル村の事業を担当させていただきました。

人口減少の状況下で、民間の「菜園付き住宅」が人気を呼び、都会からの移住が少しずつ始まっていた頃であります。

私が計画したのは、地域住民はもとより、この移住者と手を取りあつて村づくりができないかということでありました。

私は、以前より、「地域振興には人々の心に「愛郷心とやる気」がなければ不可能なことである」との信念があり、皆が心を合わせて取り組むときに地域振興は加速するものと確信していました。

最初に取り組んだのは「移住者囲炉裏談義」で、そこで出てきた提案をとりまとめ、事業化していきました。「昔筏師による筏流しのイベント」「モミジ祭」「はたる祭」、「道の駅にシンボル塔を設置」「宿泊施設きのくに中津荘の広場に地元出身の歌舞伎の創始者のブロンズ像を設置」等々でした。

### 2. 移住システム「体験から交流へ、交流から定住へ」

平成12年度から産業振興課に異動し、まさに地域振興の舞台に立たせて頂きました。そこで、県外への情報発信を行う組織として、移住されて来られてた人々と地域住民で体験型観光や民泊事業に取り組む「ゆめ倶楽部21」を立ち上げました。テーマは「体験から交流へ、交流から定住へ」です。その企画部会を中心に毎月1～2回体験型観光のプラン会議が開かれ、特に移住者は地元住民の目線とは違った視点で斬新なプランが生みだされました。

そして、地域の6次産業化への取り組みとして「農畜産物処理加工施設」を建築するとともに、地域の農畜産物を加工し、「道の駅Sanpin中津」で販売するというシステムも構築しました。また、「ゆめ倶楽部21」では、食農体験・手づくり体験活動にも取り組んでいます。

さらに、情報ネットワークとして都市と田舎の相互交流のプラットフォームをつくろうと、移住者や地元出身の人脈を活用して「中津ファン倶楽部」を立ち上げました。

その結果は、体験型観光の参加者増加として現れ、初年度860人程度の

体験型観光の参加者が3000人を超える人数となってきています。

### 3. 移住システム「移住への道」

「体験から交流へ、交流から定住へ」の移住システムで、体験型観光に参加されたり、田舎暮らしお試し民泊を体験された方々から、移住希望者が出てきたのです。これこそが、本来の目的でありました。



「移住希望者による田植え体験」

すでに移住されている方からのサポートやアドバイスは、移住希望者にとって大変心強く、安心して移住できる地域の受け皿として大きな役割を担っておりますが、これは、かつて取り組んだ「生涯学習の場」が契機となって始まり、移住システムを地域で支えています。

そのような受け入れのサポート体制のもと、特に長短期滞在により農作業体験等を通じ地域や人を知ることができる「田舎暮らしお試し民泊」の取組は移住に向け大きな原動力となっております。

これらは、町と受け入れ協議会である「ゆめ倶楽部21」が一体となり取り組んでおり、移住実績も和歌山県下でトップに至っております。



「移住希望者による稲刈り体験」

### 4. 「体験型観光」継続発展への道

さらに、これまでの事業を発展させ、一度に300人規模の教育旅行生を受け入れる民泊事業を将来にわたり持続性のある事業にしようと、令和3年3月に御坊市・日高地方1市6町で広域組織化した「御坊日高教育旅行誘致協議会」が設置され、その実行組織として「紀州体験交流ゆめ倶楽部」の事務局長の立場でお仕事をさせていただいております。

具体的には、これまで日高川町で取り組んできた移住政策とは切り離し、当地方の豊かな自然、農林漁業、特徴ある食文化などを活かした体験型観光による更なる誘客・交流人口の増加による地域活性化を図ろうとするもので

す。



「マレーシアからの民泊参加者と受け入れ家庭」

今まで培ったノウハウと1市6町の住民の思い、そして御坊・日高地方出身で県外に在住の人々のネットワークを基軸にして、継続発展への道を決かなものにしていきたいと願っています。

## 5. アドバイザーとしての思い

現在の社会で生活していくには、様々なストレスがあり、今ほどメンタルヘルスの大切さが言われている時はないと思います。この時にあたり、それぞれの地域において農林漁業を中心とした体験型観光のプログラムの創意工夫により、体験を通して都会から田舎へのいわゆる田園回帰を促し成果をあげるチャンスであると考えて活動をしています。

同じような課題を抱えた地域が連携・共有しあいながら、人口減少していく現状に歯止めをかけなければならないと思っています。

最後に、1市6町で広域組織化した「紀州体験交流ゆめ倶楽部」には多彩な人材がおり、一丸となって日々奔走しております。今後、地域の活性化のために、各地域の皆さま方の相互交流がより促進されますことを念願しております。

(参考：紀州体験交流ゆめ倶楽部HP <http://kisyutaiken.com/>)